

検事総長と語る会

★ 検事総長自らが、裁判員制度が始まるころに成人となり裁判員に選ばれる可能性がある中学生に直接語りかけ、率直に質問に答えるという企画。

日時	学校名	学年	人数	実施場所	備考
H17.6.23	お茶の水女子大学附属中学校	2, 3年生	約10名	東京地方検察庁	
H17.10.3	新宿区立落合第二中学校	3年生	約25名	落合第二中学校	給食付き(総長が、先生・生徒と一緒に給食をいただく)
H17.10.18	中央区立銀座中学校	3年生	約10名	東京地方検察庁	

平成17年6月24日(朝刊)

日本経済新聞(43面)



◎：一般市民が重大な刑事裁判に参加する裁判員制度が二〇〇九年五月までに始まるのを前に、松尾邦弘検事総長(62)は二十三日、中学生との「総長と語る会」を初めて開いた。写真。PRに躍起だった。

◎：参加したのはお茶の水女子大付属中学二・三年の男女十二人。制度開始のころに成人を迎えるとおって、松尾総長は身ぶりを交えて五十分間、裁判員の役割を熱く語り続けた。

◎：「選ばれたらぜひやりたい」と前向きな生徒が多かったが、「専門家だけでやればいいのでは」と冷めた質問も。総長は「観客席にいた国民が舞台に立つんです」とPRに躍起だった。



◇検察トップの松尾邦弘検事総長が23日、お茶の水女子大付属中の2・3年生12人を東京都千代田区の東京地検の庁舎に招き、裁判員制度について「語る会」を開いた。写真・手塚耕一郎。

◇生徒からは「専門家の方が正確では」と善直な疑問も。松尾総長は「『人ごとじゃない』ことが大切。皆さんに参加してもらい開かれた良い司法に」と語りかけた。

◇「帰ったら両親に制度の大切さを教えてあげるよほほ笑む子供たち。法務省も松尾総長の狙いは通じたか？」

【銭場裕司】



毎日新聞(29面)